

# みのの EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

## 第二回セラミックバレー展 タイル百年祭が 開催されました!



「タイル名称統一100周年」のクライマックスとして、11月5日(土)~6日(日)、セラミックパークMINO(岐阜県多治見市)にて「タイル百年祭」が開催された。広い会場にアート、ワークショップ、雑貨店など、タイルに関わるものが大集合! 飲食店も多数出店し、一日を通して楽しめる催しとなった。



### タイル尽くしの2日間

当日は多治見駅から無料のシャトルバスを運行。初日の11時20分発のバスはほぼ満席。セラミックパークMINOに到着すると、会場となる展示ホールの入口には、12時のオープンを待つ家族連れやグループが大勢集まっていた。会場のマップを受け取って会場へ。

入ってすぐのスペースには、飲食店や雑貨店など30店舗ほどが出店。カレーのスパイスの香りが食欲をそそり、お昼時とあって、食事をする人たちでタイルテーブルとベンチはすぐ満席に。

お腹を満たした後は、ワークショップに参加したり、タイル張りの実演や展示を見たり、買い物をしたり。タイルピアノ(みのEDO 228号で紹介)の演奏も披露され、一日では足りないくらいの盛りだくさんの内容だった。

14時からはパネルディスカッション「タイル未来会議」を開催。様々な立場でタイルに関わる6人がタイルの魅力や、これからの方向性について意見を交わした。

日が暮れてきた頃、会場に音楽が響き始め、「タイルディスコ」がスタートした。タイルのミラーボールを備えたタイルDJブースにゲストDJが登場。5日は20時まで開催。お酒の販売もあり、昼間とは違う雰囲気由来場者を楽しませた。



「モザイク会議」会員作品



I am  
TILEMAN

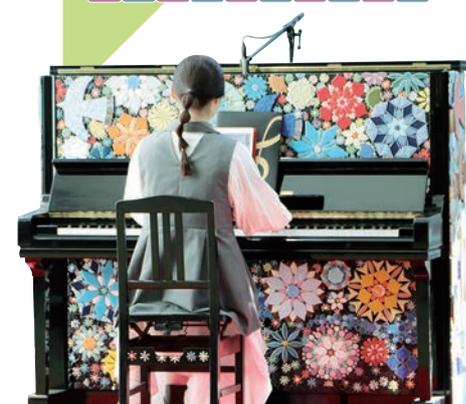
タイルアート



モザイクの小屋



タイルピアノの演奏会



タイルディスコ



飲食店



## パネルディスカッション「タイル未来会議」

各登壇者が自身の活動について話した後、ディスカッションがスタート。「賃貸住まいでタイルを使うには」「ユニットバス世代はタイルを新鮮に感じるのではないか」「ゼネコンに釉薬のムラの美しさを理解してほしい」など、多様な意見が交わされた。

登壇者：佐藤卓氏(グラフィックデザイナー)／後藤泰男氏(INAXライブミュージアム主任学芸員)／笠井政志氏(セラミックパレー協議会チェアマン)／水野太史氏(建築家)／白澤真生氏(テキスタイルアーティスト)／加藤郁美氏(編集者)  
モデレーター：花山和也氏(株式会社新町・山の花オーナー)  
プロジェクトディレクター：谷口佐智子氏(&Rainbow Inc.)



「タイル未来会議」動画を公開中

<https://www.youtube.com/watch?v=yktiZogmHOE>



### タイル企業ブース



タイルのパネル展示ほか、各社のブースでは、オリジナル雑貨やアクセサリーなどを販売。

### 数字で見る セラミックパレー展



タイル百年祭は、第二回セラミックパレー展として開催。「セラミックパレー」とは、やきものの産業と文化が息づく東美濃の地域に付けられた名称。展示ではタイルに留まらず、美濃焼について数字を用いて紹介。



旧杉江製陶所の95年前の見本室タイル(みのED0228号で紹介)の再現展示が多治見で実現!

### 昭和のかわいい タイルたち



丸ヲ各務商店の30~50年前のタイル。

「にっぽんのかawaiiタイル」の著者・加藤郁美さんの写真展には、日本のタイルが彩る台湾の風景も。

## 「みんなのタイル図鑑」完成!

今年6月~7月、「みんなのタイル図鑑」の制作に向けて実施したクラウドファンディングは目標金額を達成。ついに図鑑が完成し、東濃信用金庫の「とうしんとタイルの100年展」のブースでお披露目となった。一般販売もされる予定。



### ワークショップ

コースターやフォトフレームづくりは定番の人気。「釉薬で絵を描こう」「タイルサンドアート」(6日のみ)といったユニークなものや、「鉱山宝探し」「タイルきのご狩り」といったゲームも。

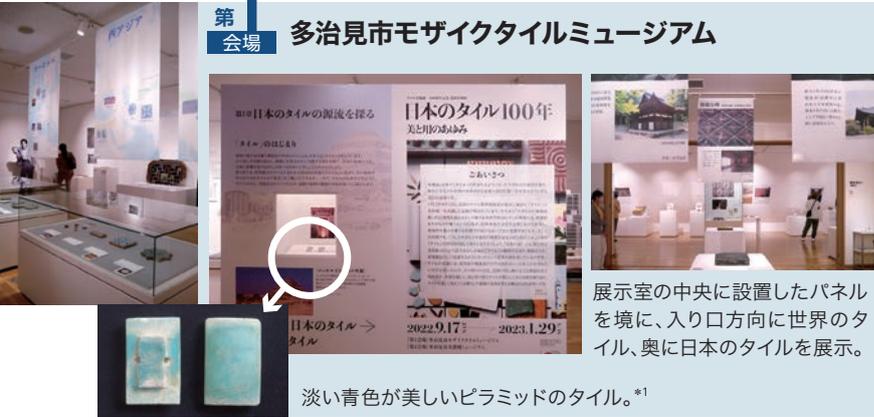
# タイル名称統一100周年記念 巡回企画展

## 日本のタイル100年 美と用のあゆみ

開催中

INAXライブミュージアムでスタートした巡回企画展が9月から多治見市で開催中(2023年1月29日まで)。市内2つの美術館を会場とし、タイルの歴史を様々な切り口でひもとく。9~11月には2つの会場をバスで巡る解説付きのツアーが実施された。

### 第1会場 多治見市モザイクタイルミュージアム



淡い青色が美しいピラミッドのタイル。\*1

### 第2会場 多治見市美濃焼ミュージアム

普段は主に陶磁器作品を展示する。静かな広い展示室に整然と展示されたタイルは、よそいきのような面持ち。



東郷青児のアートモザイクタイル画。\*2

照明が当てられ輝くタイルの浴槽。\*3



### エジプトと笠原町のつながり

展示は3章で構成。第1会場のモザイクタイルミュージアムでは、第1章「日本のタイルの源流を探る」、第2章「1922年、日本での名称をタイルに統一」までを展示する。

第1章では、ヨーロッパ、西アジア、東アジアの地域ごとに世界のタイルを紹介。冒頭に登場するのがピラミッドに張られていたタイルで、約4000年を経て今も色形が保たれ、神秘的な存在感を放つ。「山内逸三さんが書籍で見て、こんな美しいタイルをつくりたいと思ったそうです」と学芸員の村山閑さん。山内逸三は昭和初期に、施釉磁器モザイクタイルの製作技法をここ笠原町で普及させた人物。その原点がこのピラミッドのタイルと知ると、また感慨深いものがある。

世界で地域の文化や芸術を取り入れ、多様に展開していったタイルは、日本に様々なルートで伝わる。6世紀末に仏教とともに伝わった「瓦」は床や壁に使われ「敷瓦」に。明治時代には、西洋建築に付随する「煉瓦」と「タイル」、アメリカから「テラコッタ」が伝来。その後日本で製作されたタイルにはやはり日本の文化が表れているのが面白い。

そして迎える1922年(大正11年)の「平和記念東京博覧会」。このとき建築の床や壁を覆うやきものの建材の名称が「タイル」と統一される。

### 水周りの白いタイルの由来

続く第3章「日本のタイル100年」は、美濃焼ミュージアムが会場となる。解説を担当するのは同館学芸員の岩城鮎美さん。名称統一によりタイルは規格化され、産業製品として流通するようになる。当時の大きな出来事がスペイン風邪の流行(1918~21年頃)により清潔志向が高まり、水周りで正方形の白いタイルが普及したこと。「タイルといえばトイレとお風呂」の起源がここにある。一方、美しさや装飾性も追求され、銭湯もマジョリカタイルやモザイクタイル画で彩られた。

ほかにも外装タイル、美術タイル、地下鉄のタイルなど、多彩な切り口で語られ、展示全体が「タイル事典」のよう。多岐にわたる様相を理解するには、サブタイトルにある「美と用」がキーワードとなる。

最後に陶芸作家たちが制作したタイルを展示。「これからのタイルのあり方」を考えるヒントとした。これは昨年のモザイクタイルミュージアムでの企画展「タイル考—陶芸の視座より」で展示した作品。巡回展ではあるが、開催館ごとの工夫や独自の内容があり、そこが見所の一つでもある。来年3月11日からは「江戸東京たてもの園」(東京都小金井市)に巡回する。また異なるタイルの魅力や可能性が見出されるだろう。



山内逸三が開発したタイル。池田泰山、小森忍が手掛ける「美術タイル」を目指した。\*5



イギリス製(左)は陰影や立体感があり油絵的。日本製(右)は色調も表面も平面的という違いがある。\*4

11月23日開催のシンポジウム「建築とタイル 双方向の対話は可能か」動画を公開予定!(モザイクタイルミュージアムHPにリンク予定)

- \*1 ファイアンス・タイル/エジプト/紀元前27世紀/INAXライブミュージアム蔵
- \*2 アートモザイクタイル画「裸婦像」/原画:東郷青児、販売:伊奈製陶/昭和26(1951)年/INAXライブミュージアム蔵 ©Sompo Museum of Art, 22010
- \*3 モザイクタイル張り浴槽/昭和35(1960)年頃/多治見市モザイクタイルミュージアム蔵
- \*4 右:多彩草花文レリーフタイル(湿式成形品)/淡陶(日本・兵庫)/明治41(1908)年頃/INAXライブミュージアム蔵 左:多彩草花文レリーフタイル(乾式プレス成形)/W.&E.Com(イギリス)/1891~1903年/INAXライブミュージアム蔵
- \*5 浮彫装飾タイル/錦織山内タイル製陶所/昭和初期/多治見市モザイクタイルミュージアム蔵

# 名古屋モザイク工業 Design Award 2022 受賞作品決定!

タイルを使用した施工事例のコンテスト「デザインアワード2022」(主催:名古屋モザイク工業株式会社/岐阜県多治見市の総合タイルメーカー)。受賞作品が決定し、同社のウェブサイトで発表された。今回は非住宅部門の金〜銅賞および入賞作品を紹介。そのうちの1カ所を訪ねた。

第7回となる今回は、328件の応募があり、部門ごとに金・銀・銅賞、入賞作品が決定した。

今年の応募作品の特徴として、審査員長・五十嵐久枝氏(デザイナー)は、「生活空間に土間的エリアを持ち込んでいる事例が多く見られたこと」「(タイルと)組み合わせる素材が豊富になってきていること」の2つを挙げた。審査員・塩田健一氏(月刊『商店建築』編集長)は「昨年までグレーのタイルが多い印象であったが、今年は、ブルーのタイルや、魚の図柄が描かれたタイルなど、明るいタイルが印象に残った」と色の変化を指摘。「長崎街道かもめ市場」のブルーのタイルは「ビードロ」の原材料を混ぜて作り出した釉薬を使用したといい、そんな“ご当地タイル”の登場にも注目したい。

審査員・大西麻貴氏(建築家)は、「タイルを使った空間では、たたえている質のようなものを視覚を超えて体全体で感じとることができる」と素材自体がもつ力を指摘。豊かな空間づくりにおけるタイルの役割に期待を寄せた。

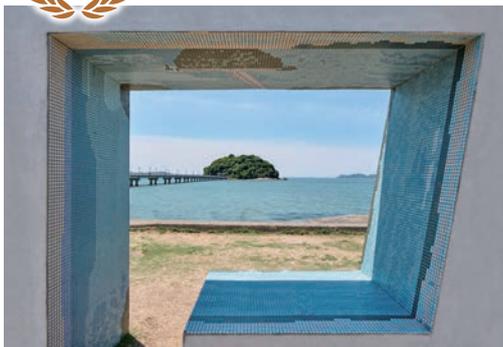
\*住宅部門を含め、受賞全作品の紹介、および審査員の総評は名古屋モザイク工業ウェブサイトにて紹介。

<https://www.nagoya-mosaic.co.jp/designaward/2022.html>



非住宅部門  
銅賞

蒲郡ベンチアートプロジェクト001「タ」  
itoto architects



デザイン・設計: itoto architects  
タイルデザイン: 安藤昇  
ディレクション: Aichi Artbrut Network Center  
施工: 株式会社トミタ 撮影: 植村崇史



非住宅部門  
金賞

WHITE ESSENCE 名古屋 栄  
株式会社スペース  
株式会社スペース 土部夢子



非住宅部門  
銀賞

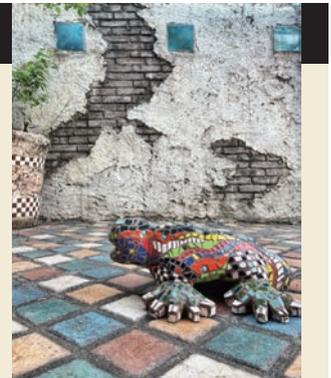
長崎街道かもめ市場  
九州旅客鉄道株式会社・  
株式会社JR長崎シティ・  
株式会社乃村工藝社

施主:九州旅客鉄道株式会社 株式会社JR長崎シティ  
デザイン:株式会社乃村工藝社 平山淑貴 波田英昭 井上博末

非住宅部門 入賞



ながめま整骨院+住宅  
青木設計事務所



ASL研究ラボ  
株式会社マイルト  
設計・施工・撮影:株式会社マイルト

\* 非住宅部門の入賞は特別賞「横浜ランドマークタワー公共歩廊/株式会社三菱地所設計」を合わせて4作品。「岐阜麦酒醸造 岐阜町醸造所 Tap Room YOROCA」は次ページにて紹介。

近年のクラフトビール人気で各地に小さな醸造所が誕生し、注目を集めている。入賞の3作品のひとつYOROCAも醸造所兼ビアバー。タイルがどう使われているかを見たくてお店を訪ねた。

岐阜駅からバスに乗り約10分下車し、伊奈波神社と善光寺に続く参道を歩く。思いのほか静かで、少し心細くなりかけた頃、お店の明かりが見えてきた。タイル壁をガラスの扉越しに見つけ、さっそく中に入る。

正面の壁には、天井から床まで全面にタイルが張られており、一面とはいえ、小さな空間の中で大きな面積を占めインパクトがある。設計者によると、壁面を清流長良川に見立て、9種類のタイルで水面や水の深さを表現したという。光が反射してきらきら光るタイルに長良川の様子を想像する。タイルに人工大理石のカウンターが調和し、カフェのような、親しみやすさを感じた。

Tap Room YOROCAは、空き家をリノベーションし、今年3月にオープン。まちづくり会社「岐阜まち家守」が岐阜市でクラフトビールを醸造する「岐阜麦酒醸造」の代表・平塚 悟さんによびかけ、出店が実現した。

Tap Roomとは、醸造所に併設されたビールを提供する施設をいい、タップはビールの注ぎ口のこと。

さっそく「やながせホワイト」を注文。できたてのビールがタップから注がれると、さわやかな黄色が青色の壁によく映える。スタッフの水原和希さんから「タイルの賞を取ったからと来店されたご夫婦がいましたよ」と嬉しい言葉を聞く。遠くから来られたビール好きの方、近くにお住まいのご夫婦としばしタイル談義に。居合わせた人同士で会話が生まれるのは、この空間だからこそと思う。

今後はYOROCAを核に、空き家・古民家活用プロジェクトが展開される予定といい、そこでもタイルが使われたらいいな、とひそかに思った。



### 「岐阜麦酒醸造」代表・平塚 悟さんに 聞きました！

#### ●完成したお店を見たときの印象は？

小さいお店の中で、入って正面に映るタイルの存在感に驚きました。計画段階では、青をベースにすることについて大丈夫かな…と思うところはありましたが、YOROCAの顔としてとても気に入っています。

#### ●お客様や周囲の人たちの反響は？

オープン当初からタイルの壁は好評でした。地元の方には、元の「よるか」\*が素敵に生まれ変わったねと喜んでいただけました。建物の外観から見えるタイルの壁、カウンターの感じを多くの方に気に入っていただいているようです。遠方から来たお客様も、タイルの壁と金色のタップを写真に収めていく方が多いです。

#### ●他に思うことがあればお願いします。

YOROCAがデザインアワードに入賞したことをとても嬉しく思っています。YOROCAには本当に多くの方が支援してくださって、その思いが結晶となって完成しました。素敵なお店に負けなよう、美味しいビールをつくっていきたいと思います。デザインを担当されたミュキデザインの大前さんをはじめ、皆さまにお礼申し上げます。

\*YOROCAとなる前、この場所は近くにある岐阜善光寺の待合所「サロンよるか」だった。

場 所：岐阜市伊奈波通1-46

営業日：金▶17:00～20:30、土日▶13:00～20:30  
(L.O19:45)

\*「岐阜麦酒醸造」ウェブサイト、twitterにて確認のこと。



タップからビールを注ぐ水原和希さん。  
醸造所は同じ建物の奥にある。



この日は「金華山エール」「やながせホワイト」ほか2種類のクラフトビールに加え、ゲストビールとしてほかの醸造所のビールを提供。



日が落ちた後のYOROCA。暖かな光が通りに漏れる。ご近所の方とおぼしき女性がビールをテイクアウトに訪れた。

# ジャパンホームショー開催

2022年10月26日(水)~28日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)において住宅・建築関連専門展示会「Japan Home & Building Show 2022」が開催された。全国タイル工業組合が出展するブース「CERAMIC TILE PLAZA(セラミックタイルプラザ)」を紹介する。



今回の展示ブースのテーマは「五感に訴える」。受付付近にアロマの香りを漂わせ、ジャズを流すことにより嗅覚と聴覚、加えてタイルで視覚と触覚に訴えるという今までにない仕掛け。

会場では、新たに制作されたタイルDIY動画「プロの技を教えます」編、「自分で出来る」編を上映。足をとめてじっくり見入る人もいて、職人技やDIYへの関心の高さが伺われた。

今年の「タイル名称統一100周年」にちなみ、昨年に続き、壁面にタイルの歴史を紹介するコーナーを設けた。



▲タイルDIY動画はYouTubeにて公開中。割付や出隅の仕上げなどの職人技が目をひく。



タイルは  
手触りも大事!



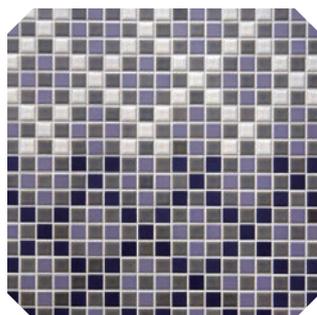
◀タイルの歴史を紹介するコーナー。

## セラミックタイルプラザ

組合員各社が新作タイルパネルを展示



エクシズ  
「ORI」



オザワモザイクワークス  
「Roche quiet early autumn 初秋の静けさ」



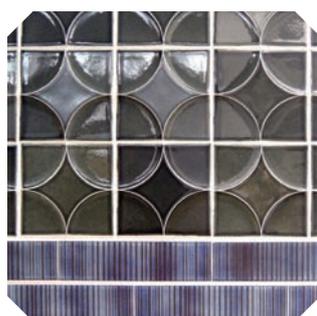
各務製陶  
「ハーフボーダー 和」



カネキ製陶所  
「レイアス」



三協製陶  
「ラスティカデザイン 88」



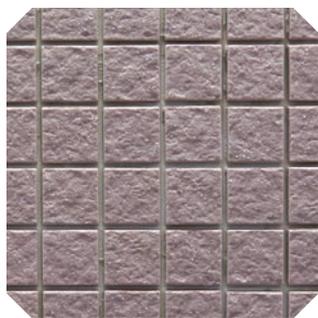
杉浦製陶  
「ZELDA/ONE THE STREET」



鈴製陶  
「煌彩シリーズ スモーキー」



セラメッセ  
「アーバンクロム」



玉川窯業

「アルテモザイク 46角」



長江陶業

「エルヴィン」



名古屋モザイク工業

「エリクサー」



日東製陶所

「アレクポーター・プレーン Mix」



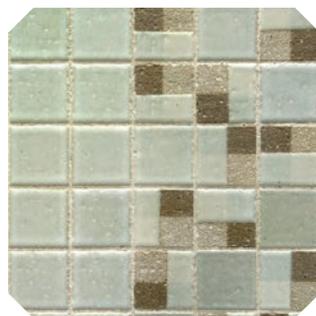
ニッタイ工業

「釉幻」



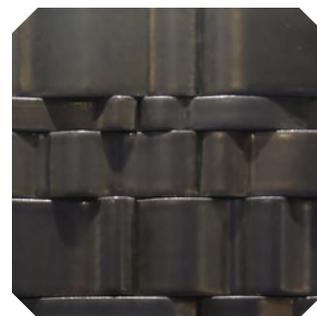
久松製陶

「ポポロ・ピコロ」



丸万商会

「タント」



丸仙化学工業所

「ゴーズ(ゴールド)」



山周セラミック

「ナチュレ ボーダー」



山延製陶所

「シェブ MIX」



立風製陶

「PENTAGN/ペンタゴン」



Danto Tile

「brill」



KYタイル

「ロザマルモール 150角 平」



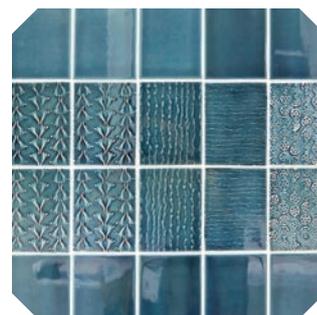
LIXIL

「エコカラットプラス デザインパネルキット」



TChic

「ポートル」



TNコーポレーション

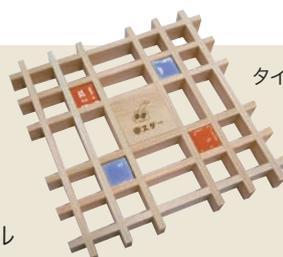
「断片」

会場ミニレポート

開期中は天気にも恵まれ、新型コロナウイルスの状況も落ち着き、以前に戻ったようなにぎわいぶり。

広い会場を歩き回ると、「静岡県木材共同組合連合会」でヒノキの組子にタイルをはめ込んだコースターを発見。ともに自然素材である木とタイルは相性が合う。同連合会のノベルティとして制作したそうで、手掛けたのは熱海市の西島木工所。

インテリアの見本市「JAPANTEX」では、壁装材仕上げの技能競技大会が開催されていた。タイル張り競技も開催したら注目を集めそうだ。



タイルをはめ込んだ組子のコースター。



壁装材仕上げの技能競技大会。